

北関東防衛局広報



編集・企画発行 | 北関東防衛局総務部広報室
さいたま市中央区新都心2-1
<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



6月4日 硫黄島における米空母艦載機着陸訓練の様様

目次

CONTENTS

- 1 米空母艦載機が硫黄島で着陸訓練を実施
- 2 小笠原漁協関係者等が硫黄島で実機雷爆破処分訓練を視察
- 3 茨城県下で災害派遣活動に従事した陸上自衛隊の紹介
- 4 派遣海賊対処行動航空隊(第7次派遣)に関する中央即応連隊出国行事
- 5 米国空軍太平洋音楽隊による復興応援コンサート in 旧騎西高校
- 6 編集後記

米空母艦載機が硫黄島で着陸訓練を実施



硫黄島に飛来した米空母艦載機

5月31日から6月8日までの間、硫黄島において、米海軍空母ジョージ・ワシントン艦載機の着陸訓練が実施されました。この訓練は硫黄島の滑走路を空母の甲板に見立てて行われるものであり、F/A-18E、F/A-18F、EA-6B、E-2C、C-2Aの艦載機が訓練に参加しました。

北関東防衛局は、訓練が円滑に実施されるよう、職員約20名を硫黄島に派遣し、器材の使用及び支援物資の輸送に係る米海軍と海上・航空自衛隊との間の連絡調整をはじめ、訓練施設の維持管理、給食などの役務の調達提供等の業務を行いました。

今回の訓練では、広田防衛大臣政務官（鈴木北関東防衛局長及び深山南関東防衛局長が随行）も米軍の訓練状況を視察するために訪島され、硫黄島では、海上・航空自衛隊の概況報告を受けた後、天山慰霊碑を参拝し、訓練関連施設の視察を行い、さらに米海軍のブリーフィングを受け、着陸訓練を視察されました。

今回の艦載機の着陸訓練実施に伴う北関東防衛局の業務は、硫黄島で着陸訓練を出来る限り実施したいとする米海軍に対し種々の支援を行うものであり、同じく訓練実施に必要なサポートを行う海上・航空自衛隊と連携し、円滑に実施することができました。

訓練期間中は天候にも恵まれ、全ての訓練を硫黄島で実施することができました。

今後も、より多くの艦載機着陸訓練が硫黄島において実施されることにより、本土での航空機騒音の軽減が図られるよう北関東防衛局はできる限り支援して参ります。



米軍、海・空自衛隊との調整会議



硫黄島を視察する広田防衛大臣政務官（左から3人目）

○米空母艦載機着陸訓練は、空母艦載機が海上で空母に安全に着艦できるよう、パイロットの練度を維持するため陸上の飛行場で行われる着陸訓練です。訓練は空母の出港に先立ち、パイロットが空母着艦のための資格を必要とするため、出航前に集中的に実施されます。

○本訓練は、恒常的な訓練施設を設置等するまでの間、暫定的に硫黄島で実施されているものです。

○今回の訓練に際しては、天候等の理由により硫黄島で訓練ができない場合に訓練を行う施設として、三沢飛行場、厚木飛行場及び岩国飛行場がバックアップ施設として指定されましたが、全ての訓練が硫黄島で実施されたため、これらの飛行場は使用されませんでした。



訓練中の米空母艦載機

小笠原漁協関係者等が硫黄島で実機雷爆破処分訓練を視察



双眼鏡を手に訓練を視察する漁協関係者等

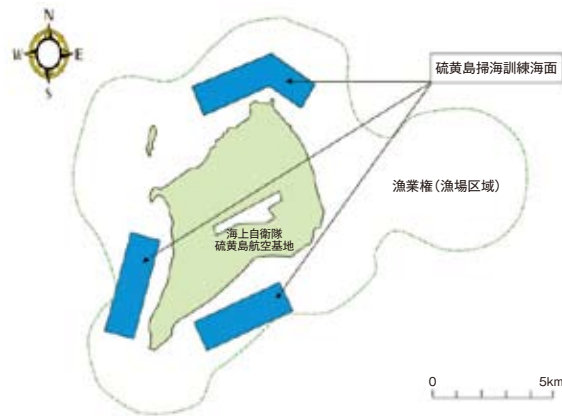


小笠原村平和祈念墓地公園で慰霊碑に参拝する漁協関係者等

本年6月18日から27日までの間、硫黄島周辺海域(東京都小笠原村)において、海上自衛隊による国内唯一の実機雷爆破処分訓練が実施されました。

海上自衛隊による実機雷爆破処分訓練は、昭和61年以降39回目を数えており、海上自衛隊の対機雷戦能力の維持・向上及び実機雷爆破処分の経験者層の拡充を図り、実任務に対応できる隊員を育成することを目的として行われています。

6月19日には、同訓練による水産資源への影響等を実際に把握するため、小笠原島漁業協同組合長、小笠原母島漁業協同組合長、小笠原村長及び東京都の漁業担当者が、随行した北関東防衛局職員と共に硫黄島を訪れ、海上自衛隊の訓練担当者から訓練内容の説明を受け、現場海域で実施された実機雷爆破処分訓練の様子を視察しました。視察後は小笠原村平和祈念墓地公園を訪れ、慰霊碑に参拝しました。



実機雷爆破処分訓練の様子を見守る漁協関係者等

茨城県下で災害派遣活動に従事した陸上自衛隊の紹介

写真提供:陸上自衛隊東部方面総監部広報室

未曾有の東日本大震災発生から4カ月近くが経過しましたが、被災地においては未だ復興に向けた活動が続いております。当局管内の茨城県においても甚大な被害を受け、3月11日の発災直後から勝田駐屯地に所在する施設学校及び練馬駐屯地に司令部を置く第1師団等の部隊が主力となり、救援活動の他、給水・給食支援及び救援物資の輸送・交付など、生活支援を主体とした災害派遣活動を行ってきました。今回は茨城県下における陸上自衛隊の災害派遣活動について紹介いたします。



給水支援を行う隊員(茨城県ひたちなか市)
陸上自衛隊勝田駐屯地施設学校



炊き出しの支援をする隊員(茨城県常陸太田市)
陸上自衛隊大宮駐屯地第32普通科連隊



救援物資を配布する隊員(茨城県北茨城市)
陸上自衛隊大宮駐屯地第32普通科連隊



救援物資を配布する隊員(茨城県北茨城市)
陸上自衛隊大宮駐屯地第32普通科連隊



給水支援を行う隊員(茨城県高萩市)
陸上自衛隊駒門駐屯地第1戦車大隊



ゴミの収集を行う隊員(茨城県日立市)
陸上自衛隊大宮駐屯地第32普通科連隊

派遣海賊対処行動航空隊(第7次派遣)に関する 中央即応連隊出国行事

アフリカ大陸東部に位置するソマリア沖・アデン湾の海域は、年間約2000隻の日本関係船舶が通行する重要な海上交通路です。この海域では武装した海賊による略奪等が多発しており、自衛隊は、「海賊行為の処罰及び海賊行為への対処に関する法律」に基づき同海域を通行する船舶の護衛や海賊の監視警戒を実施するなど幅広い国際任務に貢献しています。

派遣海賊対処行動航空隊は、ジブチ国際空港内の米軍基地を活動拠点としていましたが、新たに整備した同空港内の基地に拠点を移し、6月1日から運用を開始しました。

第7次派遣では、海上自衛隊第2航空群(八戸基地)から約170名、陸上自衛隊中央即応連隊(宇都宮駐屯地)から約60名が派遣されました。隊員は最高気温が45℃にも達する過酷な環境の中、爽秋までの約4ヶ月間の任期を務めます。

掲載した写真は、6月3日(金)午前、陸上自衛隊宇都宮駐屯地において実施された、派遣海賊対処行動航空隊(7次派遣)に関する中央即応連隊の出国行事の様相です。

ジブチ共和国		
面	積:約23,200平方キロメートル (四国の約1.3倍)	
言	語:アラビア語、仏語	
宗	教:主にイスラム教	
時	差:約6時間	
気	候:熱帯乾燥気候帯	
	平均気温:35℃(5月~9月)25℃(10月~4月)	
	主要援助国:仏、日、伊、米、スペイン	
		



中央即応連隊長から訓示を受ける隊員



出国行事に参加した家族と隊員



中央即応連隊の見送りを受ける隊員



出国行事を終えて駐屯地を離れる隊員

米国空軍太平洋音楽隊による復興応援コンサート in 旧騎西高校



6月18日午後、今にも降り出しそうな雨雲におおわれる中、米軍横田基地の米国空軍太平洋音楽隊が埼玉県加須市の旧騎西高校で慰問コンサートを実施しました。

東日本大震災の福島第一原発事故に伴い福島県双葉郡双葉町が警戒区域に指定されたことから、双葉町役場とともに双葉町民が旧騎西高校に避難しました。自宅に戻る目処の立たない不自由な生活を町民同士支え合いながらの暮らしを続けており、少しでも双葉町民の心を癒したいとの思いから、北関東防衛局は、双葉町役場と同音楽隊を取り持って慰問コンサートを実現しました。

同音楽隊は、旧騎西高校の中庭でポップ、ロック、ラテン音楽や歌謡曲を熱演・熱唱しました。午後のひととき、小雨模様の中を身体でリズムを取って聴き入る年配者の様子が印象深く感じられました。また、同コンサート終了後には、双葉町民は同音楽隊員に笑顔で握手を求めるなど和やかな雰囲気の中に幕を閉じました。

今後も各地に分散する被災地の方々の意向を踏まえながら、米国空軍太平洋音楽隊と調整を図り、被災地の方々の心の安らぎと笑顔を求めて、北関東防衛局は引き続き同音楽隊の慰問活動の橋渡しを積極的に行って参りたいと考えています。

編 集 後 記

東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

現在、陸・海・空自衛隊と米軍の音楽隊によるコンサートが各地で行われております。北関東防衛局が所在するさいたま新都心(さいたまスーパーアリーナけやき広場)におきましても、随時開催されております。

今後の演奏会の予定を掲載致しましたので、近くにお越しの際は、各自衛隊と米軍の演奏をお楽しみになってはいかがでしょうか？

月日	演奏部隊
7/12(火)	陸上自衛隊中央音楽隊
8/23(火)	陸上自衛隊第12音楽隊
9/6(火)	航空自衛隊航空中央音楽隊
9/13(火)	陸上自衛隊東部方面音楽隊
9/27(火)	海上自衛隊東京音楽隊
10/11(火)	在日米陸軍軍楽隊

※演奏時間はいずれも12:10~12:50の予定です。

※演奏場所はいずれも「さいたまスーパーアリーナけやき広場」の予定です。

※天候、その他の都合により中止になることがあります。

※7月1日現在の予定ですので、変更される可能性があります。

問い合わせ先:北関東防衛局総務部広報室
電話 048(600)1804